

# 環境学習等推進協議会の活動状況について

資料2-3

## I 環境学習推進計画の改定について

### 1 「環境学習をめぐる動き」の整理

#### (1) 国際的な動き

「持続可能な開発のための教育（ESD）」

#### (2) 国内の動き 法律の改定

「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」への改正  
(改正法完全施行：平成24年10月1日)

#### 改正内容(ポイント)

- ・ 体験学習から幅広い実践的人材づくりへ。
- ・ 自然体験などの機会の場の提供や協働による取組の推進といった具体的事項が新たに盛り込まれた。

#### (3) 滋賀県の動き

① 「滋賀県における今後の環境学習のあり方検討小委員会」の設置  
(平成24年10月～平成25年9月)

② 「第四次滋賀県環境総合計画」の策定 (平成26年10月)

#### 取組を進める横断的な仕組みづくり

- ・ 人育ち・人育ての仕組み ⇒ **環境学習等推進協議会**
- ・ 環境課題解決の仕組み ⇒ **琵琶湖環境研究推進機構**



## 2 「県内の環境学習の現状と課題」の抽出

### 環境学習の現状と課題等～主体別整理～

- 環境学習の実践者へ事前にヒアリングを実施
- その結果を協議会で共有
- 環境学習を盛り上げるために必要なこと等について御意見をいただいた。

### 頂いたご意見

#### <人材発掘・育成および活用>

- 指導者育成に力を入れてもらいたい。学校現場でも自然を教えられない先生が多い。
- 先生方が自信をもって環境学習に取り組めるスキルが必要と思う。
- 地域のコミュニティセンターは貸館業ではなく、人を育てるとともに地域の高齢者に対してアプローチしなければいけない。
- 「つながり」としては、高齢者の知恵なども大事。
- 高齢者の役割、生きがいづくりでは、「環境学習」は外せないキーワードである。

#### <環境学習プログラムの整備および活用>

- 新しいものに取り組むのではなく、既存の学習をE S Dや環境学習の流れに組み替えて捉えると良い。
- 環境学習は農業等の第1次産業との関わりも多いのではないかと。食の大切さなども入れてはどうか。
- 「うみのこ」は滋賀の看板であるため、事前事後も含めてそれをサポートすることで、「うみのこ」を高めていく必要があるのではないかと。
- 学校での環境教育は、まずは「親しむ」ことを低学年から行い、高学年の「守る」という学びへと展開できるようにしてほしい。

## 頂いたご意見

### <場や機会づくり>

- 盛り上げるには、自己肯定感がもっと必要。活動報告（ホメ殺し）の場をつくること。
- 環境学習に取り組んだOB・OGや老後・定年後の方々に対して「自発的な」機会を用意することで、環境学習が広がるのではないか。
- OB・OGからの発信の機会を設ける必要がある。環境学習の成果発表の場で、大学生が前面に出て進行を行っているのを見て、子ども達が「カッコイイ」と憧れていた。

### <情報の提供>

- 一般論と不特定多数への情報は届かない。ターゲットを絞って、やりとりの中での情報提供が一番良い。
- 気軽に聞ける、手助けしてくれる方がいてほしい。
- 環境学習に積極的に取り組んでいる企業や団体が多くある。もっと情報共有をして、民間の力を活用してもらいたい。
- 自治会などで熱心に活動している所へ情報を積極的に流していく必要があると思う。

## 頂いたご意見

### <連携・協力の仕組みづくり>

- 団体間の「おつきあい度チェック」が必要。ハブとなる団体や分野、場が見えてくる。
- 年間を通しての環境学習を行うことで保育の効果が見えるが、そういったことを補完してくれるコーディネーターや情報を得られると良い。
- 地域団体と学校等とのマッチングができていない。コーディネーターの育成など、その基盤をつくる必要がある。
- 学校での環境学習では、専門性の高い市民活動の方などに依頼できるとよい。ただ、教育については先生が専門である。タッグを組んで進めると良い。

### <取組への気運を高める普及啓発>

- 複雑な社会の中で環境学習を捉えていく必要もあるが、県民にすっと入るメッセージも大切である。
- (ブランド化について) 他県と比べてインパクトがないと言われている。いいものがあるのに、外へ発信できておらず、内の誇りにもつながっていない。

### <進行管理の指標>

- 行政が施策として環境学習をする場合には成果を測る必要がある。何を持って測るのかは難しく、試行錯誤していかなければいけない。参加者が事業後にどのような動き・活動を行ったのか把握して、それを指標化していくことが大事。
- 子どもが家に帰ってから親に話すことによる波及効果を指標に入れると良い。

## Ⅱ 環境学習センターの企画運営への意見等

### 「環境学習センターの現状と課題」について報告

#### ＜環境学習センターの現状＞

- 環境学習に関する情報収集・提供
- 環境学習の企画サポート・コーディネート
- 環境学習を支えるネットワークづくり

#### ＜課題および対応＞

- 発信情報の充実・強化
- 関係機関等との連携強化
- 環境学習センターの認知度向上

#### 頂いたご意見

##### ＜情報収集・提供＞

- エコロジーのHPは情報が集まっていますと良いと思う。これをさらに充実・普及していくと良い。

##### ＜企画サポート・コーディネート＞

- 環境学習センターが、メリットをもって集える場であれば良いと思う。
- 博物館のリニューアル構想において、学校と地域をつなぐコーディネート機能などがあがっている。そういったものを提供して欲しい。
- 「つなげる」ためには現場を知っている必要があるため、環境学習センターで現場を持つことは重要。

##### ＜ネットワークづくり＞

- 情報は一か所に集約されるものではない。環境学習においてハブとなっている団体の情報を環境学習センターが把握しておく必要がある。人材も同様。センターがそれらのハブとつながっておく必要がある。